

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		こども療育教室通園指導事業		担当課 社会福祉課・こども療育教室
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間 平成 9年度～
	施策	障がい者（児）福祉の推進		種別 任意の事務
	基本事業	療育指導・相談の充実		市民協働
予算科目コード		01-030102-24 単独	根拠法令・条例等	守谷市こども療育教室の設置及び管理に関する条例，同条例施行規則，守谷市こども療育教室運営要綱，児童福祉法。

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
発達に心配のある児童（小学生までの児童）に対する療育訓練や相談などの支援の場がなく保護者の強い要望により平成9年度から事業開始，法改正で現在は就学前の児童対象の「児童発達支援事業」として実施する。	発達に心配のある就学前の児童に対し親子で通園してもらい，日常生活における基本的な動作の指導，知識技能の付与，集団生活への適応訓練を行う。 ○「個別指導」：療育指導員と1対1で言語指導，認知学習などを実施。 「集団指導」：年齢，実態を考慮して5～6名の小集団を編成し，身辺自立，集団参加訓練，創作活動などを実施。 ○「水療育」：専門講師によるスキンシップ水泳療育の実施。 ○「相談業務」：発達に関すること，就園・就学に関すること等の相談。 ※平成9年度～平成14年度まで補助事業の「親子通園事業」。 平成15年度～平成23年度まで支援費制度及び障がい者自立支援法の「児童デイサービス事業」。 平成24年度～現在，児童福祉法の「児童発達支援事業」（対象者が就学前の児童に変更）。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市内在住の発達に心配のある就学前の児童及び保護者で児童発達支援の利用を希望する方を対象として，親子で通園してもらい，日常生活における基本的な動作の指導，知識技能の付与，集団生活への適応訓練を行う。	
（参考）基本事業の目指す姿	
相談や健診等により障がいを早期に発見し，適切な療育指導を受けられるようにします。 相談や療育指導を受けることで，保護者の不安を軽減します。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
当該事業は発達に心配のある就学前の児童の児童発達支援利用希望者に対し，親子で日常生活における基本的な動作の指導，知識技能の付与，集団生活への適応訓練を行うものである。現在は，利用契約者数がここ数年100名を超え増加中である。適正な指導やプログラムが提供できるよう指導員の指導や配置等にも万全を期す必要がある。	特になし。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
プレイルームに設置してある「ボールプール」の使用年数が概ね20年になり，破損がひどいことから，利用者の安全に配慮するため備品の購入を行う。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	教育備品として必要性の高い「ボールプール」の利用に安全を期すため，備品の購入を行う。（第一四半期に購入予定。）次年度のコストの方向性としては，備品購入については考慮しつつもを現状維持を目指すものとする。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の取組（評価、課題への対応）
1. H29年度中間評価 （１）利用者増加への対応として、講師への依頼回数が増加する。 （２）指導用マットを防災製品へ変更する。 2. H29年度事後評価 （１）今後の事業の方向性は「維持」 その理由として、利用者は増加しており、療育支援及び種々の相談の継続が必要であることがあげられる。 （２）利用者の増加により、事業拡大の検討を行う。	H30年度事業評価 （１）利用者の増加に対し、講師への個別指導の依頼回数が増加した。また、療育指導員の担当指導数も増加し対応した。 （２）防災マットを購入し、従前のマットと交換した。 （３）言語指導を必要とする利用者への対応として、新規採用職員として言語聴覚士の募集を行った（１名採用予定）。 （４）ボールプールを平成31年度予算に計上し購入予定。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
利用登録者数（人）	87.00	101.00	114.00	110.00	110.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	対象児への発達支援及び保護者支援を行い、対象児や保護者が家庭や地域で日常生活を円滑に送れるように関係機関と協力しながら事業を実施しており、成果は上がっている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	利用者は増加傾向（H30年度114名、H29年度101名）であり、電話等による相談件数もH30年度は625件となっており、こども療育教室の事業に対するニーズは高く継続が必要である。 新規職員の採用による効果検証を行いながら、利用者増加への対応を継続して検討する。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	4,488	5,210	6,533	5,051	5,051
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	4,488	5,210	6,533	5,051	5,051
	一般財源	0	0	0	0	0
正職員人工数（時間数）		8,977.00	10,587.00	9,378.00	0.00	0.00
正職員人件費		36,806	43,407	39,153	0	0
トータルコスト		41,294	48,617	45,686	5,051	5,051

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		こども療育教室施設維持管理事業		担当課 社会福祉課・こども療育教室
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間 平成20年度～
	施策	障がい者（児）福祉の推進		種別 任意の事務
	基本事業	療育指導・相談の充実		市民協働
予算科目コード		01-030102-25 単独	根拠法令・条例等	守谷市こども療育教室の設置及び管理に関する条例，同条例施行規則

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成11年に北守谷公民館の併設施設として完成。平成20年4月から、障がい者福祉センターの指定管理者制度導入に伴い、施設の維持管理を障がい者福祉センターと分離したことにより事業を開始した。	各委託業務・保守点検業務を定期的の実施し施設の維持を図る（清掃委託，自動ドア保守点検，空調設備保守点検，害虫駆除委託）。 また，施設の安全確保のため，修繕等への対応を行うとともに，機器等の故障・不具合に対応する。利用者への配慮や施設利用に支障のないよう調整を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
こども療育教室の利用者が安全で快適に利用できるよう，施設の維持管理を行う。	
（参考）基本事業の目指す姿	
相談や健診等により障がいを早期に発見し，適切な療育指導を受けられるようにします。 相談や療育指導を受けることで，保護者の不安を軽減します。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
当該事業は，こども療育教室の利用者が安全で快適に利用できるよう，施設の維持管理を行うものである。当施設は，建築後概ね20年になりますので，設備等にも老朽化が見られる。今後は計画的に大規模改修等を実施する必要がある。	特になし。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
空調設備は，保守点検上から交換部品の生産が停止していることや，設置年数からも空調設備の更新工事が必要な時期であることから，次年度に更新工事を実施する。 【今後の予定】 平成35年度に雨漏り対策等のため屋上外壁等防水塗装工事を北守谷公民館の修繕工事と併せて実施する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■ 増加 □ 維持 □ 削減	次年度は，計画的に空調設備の更新工事を実施する。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度 of 取組（評価、課題への対応）
1. H29年度中間評価 （1）雨漏り箇所の修繕を行う。 （2）平成35年度の公共施設大規模修繕計画で、北守谷公民館と同時に外壁・屋根全面の防水工事、空調機器交換工事を実施する予定。 2. H29年度事後評価 （1）平成35年度の公共施設大規模修繕計画までに、空調設備が使用できなくなる場合には工事をする必要がある。 （2）敷地内の整備（駐車場のアスファルト補修、外灯設置）の検討が必要である。	今年度の修繕箇所はなし。 敷地内設備（駐車場のアスファルト、外灯）も、破損や劣化の拡大はないため、補修等は行わなかった。 空調設備は、交換部品の生産が終了しており、保守点検においても交換工事の必要性を指摘されていることから、平成31年度に交換工事を実施する。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
修繕率（修繕必要箇所数÷修繕完了数）（％）	100.00	85.71	0.00	100.00	100.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	今年度は施設修繕を行わなかった。 敷地内の整備（駐車場のアスファルト補修，外灯設置）については，状況を確認しながら工事の必要性を検討する。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	施設を維持管理するため，事業を継続することが必要である。				

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	1,956	3,206	1,859	20,774	1,877
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1,956	3,206	1,859	20,719	1,877
	一般財源	0	0	0	55	0
正職員人工数（時間数）		66.00	62.00	14.00	0.00	0.00
正職員人件費		271	254	58	0	0
トータルコスト		2,227	3,460	1,917	20,774	1,877